

高僧のおもかげ—仏教美術

2017年10月14日(土)－11月26日(日)

仏教の隆盛は、信仰と真摯に向き合った僧侶の存在に支えられてきました。特に教義の大成者や新たな宗派の祖となった僧侶は、死後も人々から尊ばれ、彼らの肖像は礼拝の対象となりました。今回の展示ではその肖像と信仰に関わる作品を並べ、遠き日に生きた高僧のおもかげに触れてみます。



重要文化財《弘法大師像》 三重・大宝院
鎌倉時代・13-14世紀

書画にあそぶ

2017年10月14日(土)－11月26日(日)

臥して以て之に遊ぶべし—中国・南朝宋の時代、宗炳(375-443)という山水画家のことばです。老齢のため遠出が



《秋声賦意圖》 華岳 清時代・乾隆20年(1755)
本館蔵(阿部コレクション)

できなくなった宗炳は、壁に描いた山水を眺め、まるでその景色に入りこんだかのように心を楽しませたといいます。古人の鑑賞にならない、中国書画の作品世界へ旅してみましょ。

物語×絵画

2017年10月14日(土)－11月26日(日)

古来、日本では多くの「物語」が育まれてきました。その豊かな世界は、画家たちの想像力を刺激し、様々な「絵画」を生み出しました。優れた画家たちによる作品は、物語の魅力を私たちにまざまざと伝えてくれます。所蔵・寄託の作品から、近世・近代の画家たちによる物語をテーマとした絵画をご紹介します。



《蟹子復讐之図》 上田公長 江戸時代・19世紀 本館蔵(小菅長次郎氏寄贈)

カザールコレクションと私たちと未来と

2017年11月28日(火)－2018年1月21日(日)

カザールコレクションの漆工品を4室にわたって展示いたします。印籠・根付・大名婚礼調度などの優品をご鑑賞ください。昭和56年(1981)以降に収蔵した作品は4000点を超え、当館蔵品の中核を形成しています。私たちは、作品の数々を享受するとともに、コレクションを未来へ継承する大切な役割を担っています。



《月に兎・太陽に鳥蒔絵螺鈿印籠》
古満寛哉銘(花押) 江戸・明治時代
本館蔵(カザールコレクション)

桃の節句—ひなまつり

2018年2月24日(土)－3月25日(日)

雛祭りは、「ひひな遊び」(雛遊び)と、季節の変わり目(節句)に人形などを川や海に流してけがれを祓う、「上巳の祓い」とが融合して生まれたものと考えられています。その確立は、江戸時代18世紀中頃と、比較的新しい年中行事と言えます。手間と時間をかけて、精巧につくられた人形、小さな雛道具類に息づく極小美の世界をお楽しみください。

古銅の美—中国と日本の金属工芸

2018年2月24日(土)－3月25日(日)



《青銅 饗餐文罍》 殷(商)時代・紀元前12-11世紀 本館蔵(山口コレクション)

古代中国では技巧を凝らした青銅器が盛んにつくられ、祭祀に用いられました。後世、青銅器は本来の役割を離れ、その錆でさえも鑑賞と愛玩の対象となります。ここでは、そうした中国の青銅器とともに日本の銅鏡や仏具など古銅の美の世界をご紹介します。

眼で味わう—詩歌、奏楽の調べ

2018年2月24日(土)－3月25日(日)

歌仙絵、名所絵、肖像画などの画面には様々な形式の詩歌が加えられ、仏画、物語絵、風俗画などにはしばしば楽器の演奏がみられます。また楽器そのものをかたどった各種の工芸作品もあります。それぞれの作品からあふれ出る詩情、調べの心地よさを「眼」でゆったりと聴きながらご鑑賞ください。



《三十六歌仙図屏風》(部分) 伝狩野山楽
江戸時代・17世紀 個人蔵